

トラック6 「お義姉様とご奉仕のお勉強」

「おかえりなさいませ、お義姉様」

「最近たくさん帰つてきて頂けて、僕嬉しいです」

（たまにただのお休みでも帰つてきてくださいますし……）

（その時も僕と『えっち』してくれて……）

「えへ」

（でも長期休暇のほうが嬉しい）

（ずうつっと、お義姉様が居なくなること考えなくて良いんですけどもん）

「あつ、も、勿論お義姉様はお家のお仕事とか、お勉強関係で帰つてるって分かってます！」

「分かってるんですけど、えへ……」

「でも、嬉しいです」

Warm bath

白井沫

Warm bath

白井沫

「あ、そうだ。この間新しくケーキ屋が出来たんですよ」
「評判も良くて、食べてみたら美味しくて！ お義姉様にも食べてほし、」

「あ」

(買つたやつ、そういういえは食べちゃったな……)

(一週間前だつたから……、どうせなら保存魔法でもかけておいておけば良かつた)
(失態だな、僕)

「えーと」

「ケーキは、その、食べちゃつたんですけど、えと」

「焼き菓子はあります！ はい！」

「後でお持ちしますね」

(一緒にお喋りしながら食べよーっと)

(ん?)

「お義姉様？」

「今日も、何だか、その、あまり顔色が良くない、と言うか」「もしかして本日のご帰宅はご療養でしたか!? すぐにメイドをお呼び、「

「あ。違う」

「そうです? なら、安心です、けど」

(じゃあ、もしかして……)

「も、もしかして、その、僕に、あの」「新しい髪を、とお考えなんじやないかな、とか……」

「あ! 本当ですか?」

「では僕、本日もお待ちしております」

Warm bath

白井沫

「はい♡」

「お義姉様！」

「今夜も良い月夜ですね。いらつしやいませです」

「どうぞいらして下さい」

「今日はどう転けて頂くんでしょう？」

「はい」

「はい」

「ご奉仕」

(ごほうし)

Warm bath

白井沫

「ご奉仕」

(すごい、僕に都合良さそうな単語出できちゃつたなあ……)

「一体、どのようにすれば……？」

「あ」

「はい」

「待ちます」

「ん、んん」

「また何か見てる……」

「はい、は……え？」

「ワタシヲ キモチヨク シテ」

「気持ち、良く……」

Warm bath

白井沫

「それは、その、……えつちな、意味で、ですか？」

「エツチナイミデ！」
(本氣で!?)

「わか、りました」

「僕が、その、好きにして、良いん……?」

「エツ」

「ア」

「オ、オネエサマガ！ キモチイイツテ イツタコトヲ スル!?」

(僕もしかして夢でも見てる!?)

「お伝え頂ける……」

「そ、そう、ですか」

(こ、これが、現実か……すごい……)

Warm bath

白井沫

「い、いえ。頑張ります……」

「自らハードルを上げた……。なんて新しい」

「まず、何をすればいいですか？」

「はい」

「あ」

「はい」

「待ちます」

(あ。……検索、始めちゃった)

(うーん)

(すごく難しい顔してるなあ……)

Warm bath

白井沫

「もしかしなくてもお義姉様、性知識あまりないので」

「あ、決まりましたか？」

「はい」

「きす」

「キス、を、する」

「きすを」

(きす……？　こいびと、みたいに？)

(え……？　都合が、良すぎ、……まつて)

(しんこきゅう、しよう)

(うん)

「つすうううう」

Warm bath

白井沫

「はい。します」

「目、瞑つて下さい」

「は、あ、ン……、ちゅ、ちゅ」

「ど、どう、ですか？」

「そうですか」

「じゃあ、もうちょっと」

「ン」

「ちゅ、ちゅ……ちゅう、ちゅ」

「気持ちいいですか？」

「えへ。良かつたです」

「お義姉様、顔真っ赤で、体温も熱くなつて、大変そうですね」

Warm bath

白井沫

「ちゅ、ちゅ、……ちゅう」

「僕、お義姉様に気持ちよくなつて貰うためにやつてみたいことあるんですけど
良いですか？」

「ん」

「よ、しょと」

「お義姉様、お耳をペろペろされるのお好きじや、ないですか？」
「こうやつて」

「気持ち、良いですか？」
(気持ち、良いですよね?)

「教えて下さい」

Warm bath
白井沫

「えへ」
「良かつたです」

「では、引き続きご奉仕、致しますね」
「ちゅ」

「おねーさま、えっちなお声出てます」
「奥、グリグリされるのが好きですか？」

「教えて下さる日なんでしょう？ お教え下さい」
「ちゅ」

「こえ、れふか？ こお？」

「きもちい？」
「ちゅ」

Warm bath

白井沫

「んふ」

「そうですか」

「じゃあ、こつちもご奉仕、しますね」

「はー、んむつ」

「こつちも、きもち一れふ？」

「ちゅ」

「えへ、好きれふか。うれひ一れふ」

「おねーさま、あえぎごえ、えつち

「ちゅ」

「ン、ん。イッはつてくらはい」

「ン、っ、ん、んー……」

「ふあ」

「どうでしたか？ 僕、ご奉仕できてました？」

(たくさん、たくさん、僕で気持ちよくなつてもらえました?)

「えへ」

「本当ですか？ 良かつたです」

「僕、また新しいことを知れて嬉し」

(あ、待つて。これ『嬢』だつたな。……嬉しい、とか、言つてだい、)

「いです」

(じょうぶそう。うん)

(お義姉様、放心してるし。何も考えられなさそまだからセーフ)

「えへー」

「んーー」

(もうちょっととえつちなことで出来ないかなー……)

(……うん、駄目かな。疲労困憊って感じだもん)

「お義姉様、今日はこちらで眠つて行かれます?」「くつたりして、お疲れのようですし……」

「寝巻きですし、使用人への連絡は僕しておきますから」「こちらで寝ましょう?」

「僕、えとほら。あー」

(言い訳どうしよう。何か、いい感じの言い訳……)

「ご奉仕した後のお義姉様をお一人にするの、駄目かな、とか思いました」

「ご奉仕のアフターフォロー的な……はい」

「はい」

(悩まれてそだから、とりあえず領いておいて……)

「はい！」

「ちゃんと僕、奉仕の何たるかをを学び、ショックを受けました！ 大丈夫です！」

「はい」

(やつた！ 納得してくれそう！)

「はい♡」

(やつたーー！ お泊り決定ーー！)

「じゃあ僕、添い寝させて頂きますね！」

「お義姉様も慣れないご奉仕の躊躇を僕にして下さって、疲れてしまわされましたよね」

「寝て、起きたら焼き菓子食べましょう？」

Warm bath

白井沫

「んちゅ」

「えへ」

「ご奉仕と言えば、寝る前はキスかなって」
（ソースとかはないけど。僕がしたいだけだけど）

「はい」

「ちゅ、ちゅ、ちゅ」

「えへ」

「おやすみなさい」